

2019年  
第1回



令和元年度  
『かぬましんきんビジネススクール』実施報告

新時代「令和元年」を迎えて、5月15日（水）「令和元年度 かぬましんきんビジネススクール 第1回勉強会」が当金庫2号館において開催されました。

本スクールは、5年目を迎え、令和元年5月から令和2年2月にかけて計5回にわたり開催されます。今回は『生産性』にテーマを絞り、生産性向上に必要なビジネスモデルの構築や人材育成方法等を学習します。

### 第1部／開校式

講義に先立ち開校式が行われ、橋本理事長より、受講生のみなさまへ本スクール参加受講のお礼がありました。

およそ30年に及ぶ平成金融の歴史を振り返り、昨今の激しい経済環境に照らして、今後は「フォワード・ルッキング（先を見越した）」や「変化への対応」が重要であると受講生にエールを送りました。

また、本スクールを契機に、隣接異業種との連携を深めて、自社の成長や地域の活性化のために活かしてほしい旨の挨拶がありました。



### 第2部／勉強会

第1回の勉強会では、「生産性カイカク～働き方を見直す～」というテーマで、「㈱タナベ経営 本部長代理 田中一司様」にご講義いただきました。

昨今の経済環境を踏まえながら、「生産性改革」や「ビジネスモデル改革」または「業務改善」等の重要性についてご講義いただきました。要点は以下のとおりです。

#### 1. 企業を取り巻く環境変化

2020 オリンピック開催需要・消費税増税・デジタルイノベーションなど企業を取り巻く環境は刻々と変化している。また、労働力不足が深刻化するなか、働き方改革は本番を迎えており、労働の質を改善しながら、密度を濃くしていくことで生産性の向上を図る必要がある。



#### 2. 生産性を捉える

生産性改革に向けて、まず業務時間や労働時間などを細かく分解して捉えることが重要である。これらを捉えたうえで、「ビジネスモデルの設計」「業務改善による稼働率のUP」「人材教育によるパフォーマンスの向上」を考える必要がある。

#### 3. ビジネスモデル改革

ビジネスとは、「①誰に・どこに ②何を ③どのように」が基本であり、この3要素

の差別化によって収益をあげていくことである。

ビジネスモデル改革は、「現状認識」「強み・特徴を活かす」「事業の方向性」「事業展開」を考えることであり、ライバル企業より、いかにして高い価値を顧客に提供できるかが重要となる。

#### 4. 業務改善・人材育成

業務改善は、「仕事の優先順位」「行動分析・プロセス分析」を行う手法が効果的である。キーワードは、「①疑う ②捨てる ③改める ④新しく」である。

人材育成は、人が継続して育つ環境を整備することが重要である。なかでも、現代における人材育成の考え方として、「能力開発の方程式<sup>\*</sup>」を活用し、必要能力を明確にして人が育ち上がる「育成型人事システムの構築」が大切である。

#### ※【能力開発の方程式】

あるべき人材像（職能要件）	－	現在の保有能力（評価）	=	必要能力（教育）
---------------	---	-------------	---	----------

#### 5. まとめ

日本全体として、生産年齢人口の減少により、労働力不足がより深刻化するなか、働き方改革は本番を迎え、生産性の向上が経営課題となっている。

会社は、何もしなければ潰れるようにできており、昨今の激動する経済環境に適応しなければ生き残れない時代である。

すなわち、変化を断行し、成長する決意を持って経営に取り組むことが、次世代経営者に求められる資質である。

### 第3部／懇親会

第1回目の勉強会終了後、情報交換会を兼ねた懇親会を開催いたしました。

冒頭に、大貫常務から挨拶があり、受講生同士との交流をさらに深めて、隣接異業種によるマッチング効果につなげていただきたい旨、受講生のみなさまに対して激励がありました。

その後は、和やかな雰囲気の中、事業について熱く語り合い、会場も熱気に包まれました。

受講生や講師そして、参加者全員の深耕が図られ、次回以降の勉強会に弾みがつく懇親会となりました。



◇受講生集合写真



次回の開催は、

令和元年7月18日（木）16時です。

テーマは、「ビジネスモデルイノベーション～成果をあげるビジネスへの転換～」です。